優秀賞

五感で感じる住宅防火
＜小学生特別防火教室＞

富山県　富山市消防局

事例類型	Ⅵ 広報活動
取組期間	令和6年度

背　景

昨今の子供たちは、家庭でIH クッキングヒーターの普及などで火を取り扱う機会が減ってきており、炎の危険性や火災の恐ろしさを実感することが難しい。

今回の取組は、本市の多様で柔軟な発想を取り入れる「部局主導裁量枠」の予算を活用し、実際に建物が燃える様子を見て、児童たちに火災の恐ろしさを学んでもらおうと、防火教室を特別に開催したものである。

内　容

●令和6年11月12日（火）10時から11時30分まで、富山県消防学校屋外訓練場を借用し、富山市内5つの小学校から3年生児童240名が参加。

会場に6畳一間の模擬家屋を建て、室内には火災が発生しやすい状況を作り、室内外にカメラを7台、また、室内4か所に温度計を設置したものである。

それぞれの映像を切り替えて217インチのビジョンカーに映し、職員が寸劇を交えながら、火災が発生するまでの状況や火災予防のポイントを児童にわかりやすく説明した。

●フライパンの調理油から発火して、周囲の可燃物に燃え移り、瞬く間に建物から黒煙が上がると、児童は真剣な表情となり、代表の児童が119番通報してから消防車が駆け付け、消火活動を行うまでの一連の動きを見学した。

●防火教室の翌日には、本市の火災調査担当職員を対象とし、また、県下消防本部に声を掛けて、模擬家屋を活用した火災原因調査実習を実施した。

●防火教室の様子を映像に記録し、市内全ての小学校に DVD を配布するとともに、高齢者防火教室などで住宅用火災警報器の設置、維持管理の促進に活用することとしている。さらに、富山市公式の YouTube にもアップし、幅広く広報する。

成　果

●防火教室に参加した児童のアンケートでは、240名中239名が「よかった。」とし、家で家族に話をしたかについて、9割が「話をした。」と回答している。

●児童の感想を紹介すると、「ニュースとかで火事をいっぱい見ているが、本物はやばいなと思った。」、「火事は、すぐ燃え広がること、命を奪うことを感じた。」、「家が火事になった時、ピーピーと音が鳴る火災報知器があるか聞いた。」など、予想を上回る手ごたえがあったと感じている。

また、先生からは「子供たちは火を取り扱うことが少なく、炎の熱さや音、においなど身をもって体験することによって、火事の本当の恐ろしさを感じていたようだ。」、「模擬家屋とは言え、本物のベッドなどを用意した室内からの出火だったため、子供たちは火災を現実的なものとして捉えていた。」との感想をいただいた。

●今回の事業を通して、児童らに火災の恐ろしさや、命の大切さを肌で感じてもらえるきっかけになるとともに、家族への火災予防の啓発にも寄与したものと思われる。

●今後とも子供たちへの防火教育を工夫しながら継続していく。